

1

「特集・生き続ける建築」は本誌No.167から178まで、3年をかけて12人の建築家を特集し、ご好評をいただいた。

このシリーズは、その続編である。日本の建築界に不朽の足跡を残した12人の建築家を登場させる。

第1回は、ウィリアム・メレル・ヴォーリス。

英語教師として来日し、日本の建築界に彗星の如く現れ、活躍したのはなぜか。

優秀な所員が彼のもとに集まり、

また多くのオーナーの信頼を得た理由はどこにあったのか。

ヴォーリス研究の第一人者が、代表的な3作品に見る特色を明らかにする。

WILLIAM MERRELL VOORHES

ウィリアム・メレル・ヴォーリス



出典：近江の兄弟ヴォーリス等

関西学院 文学部校舎側面入り口詳細図〔部分、1927〕
〔所有一粒社ヴォーリス建築事務所、所蔵大阪芸術大学〕

オーディナリー、そして「永続的満足」という賜^{たまもの} | 山形政昭

Masaaki Yamagata

はじめに——英語教師からミッション建築家へ

ウィリアム・メレル・ヴォーリスは、明治13年〔1880〕米国カンザス州レヴンワースに生まれ、高原の町アリゾナ州フラグスタッフに転居して成長し、コロラド大学哲学科を卒業後、在学中のYMCA活動を通してキリスト教の海外宣教活動を志した。そして明治38年〔1905〕2月に滋賀県立商業学校英語教師として来日している。教員時代は2年で終わるが、その間に教え子たちに深い感化を与え、また独力で八幡YMCA会館を建てるなど、後の活動を予感させるものがあった^{〔1〕}。失職していた明治41年〔1908〕、支援者の紹介で京都YMCA会館（テ・ラランデ設計）の建築工事監督に就き、ここで建築設計監督事務所を始めたとされている。その状況は必ずしも明らかではないが、明治43年〔1910〕には欧州米国を巡る旅を行い、近江八幡に戻った12月に教員時代の教え子の吉田悦蔵ら、それに米国人建築技師をスタッフに加えてヴォーリス合名会社を設立し、独自のキリスト教主義事業を始めた。つまり湖畔伝道^{〔2〕}を行いながらアメリカ建築の流れを引く建築設計、そしてメンソレータムや米国製ピアノなどの販売事業を進め、やがて大阪、東京に支所を置くヴォーリス建築事務所、および近江ミッション（昭和9年〔1934〕より近江兄弟社）を率い、近江八幡では近江サナトリウムやささまざまな教育事業など、地域に根付き貢献した。

奇跡とも思える事業の広がり、建築活動の進展には目を見張らせるものがあり、ヴォーリスのもつ類い稀なる資質に惹かれるのである。

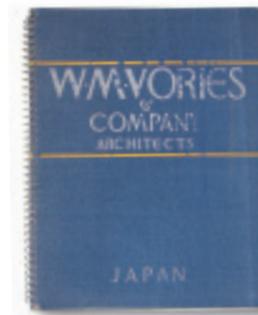
実際、建築活動ではキリスト教の関係者の間では厚い信頼を得て、全国各地のキリスト教会やミッション・スクール、そして宣教師住宅を建て、米国の伝統的住宅スタイルを応用した数多い住宅設計を行い、日本住宅の洋風化に影響を与えた。また大同生命ビルディング（大阪、横浜、札幌など）、百貨店の大丸大阪心齋橋店や京都店、主婦の友社ビル（東京）、矢尾政レストラン（現・東華菜館、京都）など著名な近代建築も残している。そして戦前期約30年における建築数が1,000棟を超えるという多作を残した実務においても特色があったといえよう。

ヴォーリスは少年の頃から絵画、音楽に才能を発揮し、とりわけピアノ、オルガンの演奏を自由に、また詩人でもあったという。そうした天性の資質と敬愛すべき明朗闊達な人柄は、幼少年期を過ごした敬虔なクリスチャン家庭と、アリゾナの清浄な空気と大自然の息吹によって育まれたものだった。

自然を求めたヴォーリスは、宣教師との交流を通して軽井沢を見出し、明治45年〔1912〕よりコテージと事務所を置いていた。実際ヴォーリスの活動は夏の軽井沢を第2の拠点として進められ、山荘建築はもとより全国で活動していた宣教師の関係する建築を多くしたことも特色といえる。ヴォーリスは昭和16年〔1941〕、満喜子夫人の生家である一柳家に入籍し、日本に帰化してひとつやなぎめれる一柳米来留となる。そして日米開戦の迫るなかで夫妻は軽井沢の山荘に居を移し戦中を耐え、近江八幡での建築活動もやがて途絶える。一柳米来留は昭和21年〔1946〕に活動を再開するが、昭和32年〔1957〕、くも膜下出血で倒れ、病床の人となり、昭和39年〔1964〕に他界した。その晩年の喜ばしいことでは、近江八幡での功績により昭和33年〔1958〕に名誉市民第1号に推挙されたこと、そして新しい世代による建築の後継者が独立し、大阪で一粒社ヴォーリス建築事務所を開設したことであろう。

軽井沢ユニオンチャーチ

軽井沢ユニオンチャーチは避暑地軽井沢の開拓期に活躍したカナダ人宣教師ダニエル・ノルマンらによって明治39年〔1906〕に設立されたもので、夏に集まった日本各地の宣教師たちが祈り、



「ヴォーリス建築事務所作品集」〔城南書院/1932〕

戦前期における代表的建築作品62件が収録され、その巻頭にはヴォーリスによる長文の「序言」が付されている。「あらゆる職務のうち建築は、いろいろなハンディキャップがあると同時に永続的満足を得る好機会も多い」という言葉で始まるもので、ヴォーリス建築事務所の特徴と、氏の建築観を表明したものと知られている。

1——ヴォーリスの自伝〔「失敗者の自叙伝」一柳米来留著〔近江兄弟社/1970〕〕があり、氏の出自および成長期から来日時の様子について詳しく述べられている

2——琵琶湖周辺の堅田、今津、野田などにキリスト教会館を設けて活動した。ヴォーリスは本来の宣教師ではなく平信徒であり、近江八幡の教会、およびこれらのキリスト教会館で牧師の協力を得て布教に協力した



ヴォーリス合名会社軽井沢事務所

ヴォーリスは明治45年に本通りに事務所を開き、また数年後には浅間山麓と呼ばれる一帯に、数棟の別荘を建せた「近江園」を開いて、夏季の活動拠点としていた
[出典：『The Omi Mustard-Seed』]



駒井家住宅

上——西面全景/下——台所[所蔵：駒井家]

3——「婦人の友」1922年9月号に「文化的九尺二間」として紹介されている。約10坪の山荘でヴォーリスによる典型的な小住宅の作例

4——「吾家の設計」W.M.ヴォーリス著【文化生活研究会/1923】

5——駒井卓[1886-1972]は東京帝大理学部を大正6年[1917]に修了後、京大へ転じ、大正12年より2年間、米国コロンビア大学へ留学するなど研究を進め、遺伝学に大きな功績を残し、また昭和天皇に生物学を教授された学者としても知られている。夫人の静江はクリスチャンの家庭に生まれ、神戸女学院に学んだ英語に堪能な才女で、留学に同行して当地の住宅と生活を学び、帰国後、米国式の生活を望んだといわれている

6——本邸は近年、ヴォーリスによる文化的な中流住宅として注目されたことで京都市指定文化財となり、所有者は保存のために(財)日本ナショナルトラストに寄付され、現在公開されており、見学のできるヴォーリス住宅なのである

交流の場とした所である。現在の建物は、大正7年[1918]、ヴォーリスの設計によるもので、その年に竣工したとすれば、築後91年になるという、当地でも数少ない歴史的建築である。

木造で押縁付きのいわゆる南京下見板張りの建築で、度々の補修によって、さして古いものと見えない建物である。しかし内に入ると、トラス小屋組オープンルーフによる礼拝堂空間の大きさと、木の空間に感動を覚える。梁間6間のトラス梁に加えて桁方向にもトラス、そして連続する方杖が空間を生気づけている。そして特色は外壁の下見板がそのまま内部に表れていること、建具を納める枠材をほとんど用いない真壁納まりという簡潔さにある。実用に徹した長椅子、講壇上部の十字架は白樺丸太を組んだものであり、それらが相まって巧まざる意匠となっている。ノー・インシュレーションで気密性とは無縁の建築であるが、夏季使用の建築としては、真に合理的なつくりともいえる。

キリスト教会であるが講堂のような建築で、当時からさまざまな集会や音楽会が行われてきたという歴史があり、その持続がこの建築の力となっている。

ユニオンチャーチと前後する建築にアームストロング山荘(現・青葉幼稚園山荘)と、ヴォーリス山荘(現・浮田山荘)^[3]がある。共に南京下見板張り、土管の煙突をもつ建物である。後者は大正12年[1923]に出版されたヴォーリスの著作『吾家の設計』^[4]の中で、「最小限の住宅を建て、実験的な生活をしているところ」と記された住宅である。実験的だったものとはいえ、昭和35年[1960]頃、画家の浮田克躬氏に引き継がれ、今も健やかに活用されている。

駒井家住宅

ヴォーリスの設計活動では、初期における外国人宣教師の住宅から、大正中期に入ると日本人のための住宅が多くなる。その中の代表的な住宅作品には朝吹邸(現・東芝山口記念館)や下村邸(現・大丸ヴィラ)など、スパニッシュ・スタイル、そしてハーフティンバーによるチューダー・スタイルなどの邸宅建築が知られている。その一方で中流と位置づけられる建坪3、40坪の住宅が数多くあった。それらは作品として必ずしも際立つものではないが、洋風を採りながら和室を導入するなど、日本人の生活に即した近代住宅なのであった。

その代表的な作例が大正15年[1926]に設計され、翌年竣工した京都大学理学部の教授だった駒井卓博士^[5]の住宅で、京都大学の北辺に大正末に開かれた北白川の住宅地に建てられたものである。住宅は比叡山が一望される東に庭を広く配置し、主棟は建坪約30坪、切妻屋根の2階建て、加えて5坪ほどの付属屋などを備えていた。スパニッシュと呼ぶにはあまりにも穏やか、そして愛らしい玄関構えの住宅だが、居間に入ると、その両側に食堂、サンルームへと続く思いがけない広さがあり、腰掛を造り付けたベイウィンドウ式の窓辺が心地良いコーナーとなっている。食堂から、赤レンガのテラス越しに明るい庭が広がる。加えて、この住宅の特色である6畳の間が玄関の東にある。竿縁天井で西面には床の間に並んで障子を立てた付書院のような窓をもつ、落ちついた和室である。この障子を開けると2連の洋式ガラス窓が現れ、洋館の中の和室であることに気が付く興味深い納まりとなっていることを発見する。ホールの一隅、コの字型に収められた階段があり、2階に書斎と寝室がある。工夫といえば、東面した明るい台所やユーティリティの設備にも細やかで見逃せないものがある。

つまり、駒井家住宅はこうした近代的な生活に基づく設備と空間を過不足なく整えた良質の住宅^[6]であり、そこに宿る温和従順な空間には際立つものがある。それは本邸の立地する環境と、建築主の進んだ住宅感から導かれたものでもあった。

横浜共立学園本館

建築家としてのヴォーリスの目覚ましい活躍は、日本各地のミッション・スクールの建築依頼に応

じて生まれた、多数の学校建築^[7]に見ることができる。実際、明治43年末に設立されたヴォーリス合名会社にもたらされた最初の大仕事が関西学院神学部校舎であり、煉瓦造3階建ての建築が明治45年に竣工した。続いて煉瓦造によるコロニアル様式、さらにはミッション・スパニッシュ様式など米国建築を範とした多くの建築を残したが、ここでは特色あるものとして横浜の共立学園本館を挙げておきたい。

ヴォーリスによる本校の建築には大正10年[1921]のクロスビー講堂があったが、関東大震災で焼失した歴史がある。その後本格的な復興を期して昭和6年[1931]に本館校舎が建てられた。本館は木造2階、一部3階建て、赤瓦の寄棟屋根と重厚な木造意匠を備えたもので、スパニッシュとハーフティンバースタイルを併せもつ建築である。また、玄関ポーチの上部デッキには、擬宝珠付き高欄が付されており、屋根に設けられた大きなドーマー窓は千鳥破風を意識したもののようにも思われる。つまり、和風を含めて種々の様式を取り合わせた珍しいデザインなのであるが、けれん味のない熟達した意匠にまとめられている。多彩だが優雅にささ感じる建築で、内部にはベイウィンドウを備えた図書室や、トラス梁を見せる礼拝堂など上質の空間を備えている。

本建築に続く昭和8年[1933]には神戸女学院と東洋英和女学院があり、この時期の設計活動は実り多い時期であった。また同年の建築に近江八幡の清友園幼稚園(現・近江兄弟社学園)の木造校舎がある。赤瓦切妻屋根、2階を白いスタッコ壁、1階を下見板張りとした外観をもつ。明るい建物で際立った装飾は見当たらない簡潔な建築であるが、新しい児童教育に専念したヴォーリス夫人の一柳満喜子の望みに応えたものだった。

事務所組織と設計思想

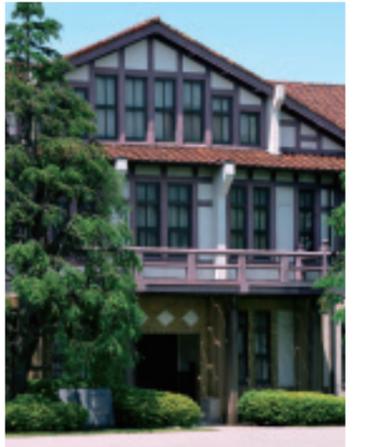
ここで再び近江八幡を拠点としていた近江ミッションの建築活動について触れておきたい。

昭和5年[1930]に作成された『近江ミッション・ハンドブック』という記録誌^[8]に次のような記述がある。「ヴォーリスさんが図面殊に平面図を引かれるときは、インスピレーションに満ち構図、計画は、忽然として、出て来る天才肌の人です。この大天才を中心として、総務として、村田幸一郎氏あり、美術的方面に佐藤久勝氏あり、構造方面に小川祐三氏あり、其他雑務に吉田悦藏氏が当たることにして部員の総計は三十名で、本店を近江八幡町に、支店を、東京と大阪に置いてドシドシ仕事をして居ます」

ヴォーリスの建築活動に向けられる謎のひとつに、「素人の建築家？」という問いがある。確かに、始めのヴォーリス合名会社^[9]の実態がよく分からない。米人建築技師チェーピンの招聘によって始動した設計活動であったが、数年後には所員数15、6名を数えており、ヴォーリス自身も熱意と努力によって相当な力量に達していたのであろう。所員のいう大天才という賛辞はともかく、記述のとおり事務所最盛期の1930年代には所員数30名ほどを擁し、東京と大阪、そして夏の軽井沢、さらに昭和12年[1937]よりは京城にも支所を置く設計組織であった。そしてヴォーリスの目指したのは「統制のとれた団体で、必要な専門家達が、各自の専門の受持を担当し、又専門家同志の相互扶助をなする建築事務所」^[10]であり、分業体制による統一ある組織によって「ヴォーリス建築事務所」は当時、相当に合理的、高水準な設計力を備えていたのである。

そして設計の確たる指針としたのは、実用に即し調和のある快適環境をつくるという、分かりやすく普遍的需目に応えるため、独創を慎み「建築設計の多くは、総合的のもので、特定の型に囚はるる事を避け、各種異型の特徴を統一したものである。即ち、古典型を選択し、これに近代的改善を施せるもの」^[10]だった。普遍的、常用的なるオーディナリーな建築と述べられているが、それを高次なレベルに実現させたところにヴォーリスの非凡な能力があった。

やまがた・まさあき——大阪芸術大学建築学科教授・同大学院芸術研究科教授/1949年生まれ。京都工芸繊維大学建築学科卒業、同大学院修士課程修了。工学博士。建築歴史・建築計画専攻、とりわけヴォーリスの建築と、関西の近代建築に関心があつた調査研究を行う。主な著書：『ヴォーリスの建築』[創元社/1989]、『ヴォーリスの西洋館』[淡交社/2002]など。



横浜共立学園本館 | 正面外観



上——ヴォーリス合名会社

[出典：『The Omi Mustard-Seed』]

下——ヴォーリスとヴォーリス建築事務所の所員たち

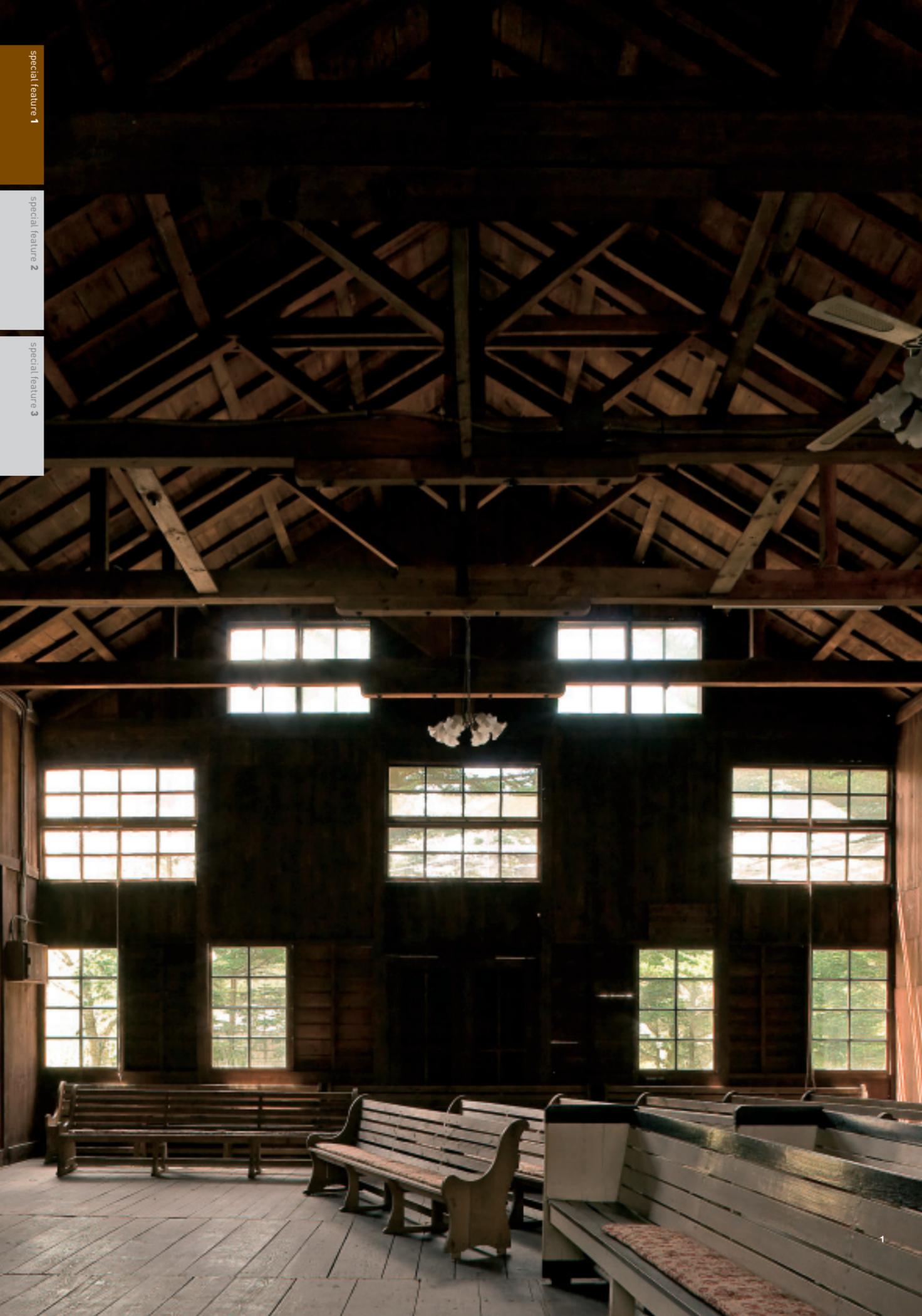
[1952年頃] [所蔵：(財)近江兄弟社]

7——遺愛学院、明治学院、同志社大学、大阪女学院、関西学院、神戸女学院、西南学院、西南女学院、ルーテル学院、活水学院などに現在も設計作品がある

8——近江ミッション(近江基督教慈善教化財団)の刊行物で、近江ミッションの概要を記したもの。その元は1925年発行の「近江ミッション・ハンドブック草稿」にあり、団体の由来、綱領、組織などについて記されている

9——L.G.チェーピン、吉田悦蔵ら、7名で始めた

10——『ヴォーリス建築事務所作品集』[ヴォーリス建築事務所著、中村勝哉編輯[城瀬書院/1932]]序言より



軽井沢ユニオンチャーチ

Karuizawa Union Church

竣工年:1918年

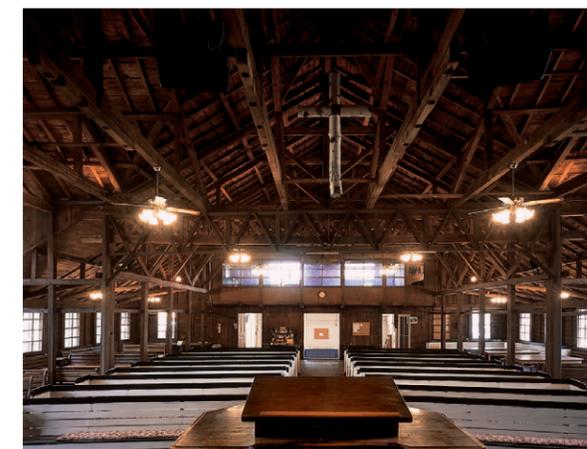
所在地:長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢1001 | 規模:地上2階
構造:木造



2



3



5



4

1— 礼拝堂西翼部:軽井沢ユニオンチャーチはプロテスタントの各派が合同の礼拝を行う教会で、集会堂のような建築となっている。屋内に小屋組トラスはもとより、外壁下見板の裏面、軸組も見せる極めて簡素な構造表現が特色

2— 北東面全景:外壁は和式の押縁付下見板、そしてランダムに窓を配した簡素で自在な外観。瓦棒式鉄板葺屋根となっているが、当初の仕様は明らかではない

3— 正面全景:ユニオンチャーチは同じくヴァーリズの設計による軽井沢テニスコートハウスクラブと向き合う位置にあり、また軽井沢集会堂とも近く、旧軽井沢の中心に位置している。ここには大正、昭和初期の歴史と空気が今も流れている

4— 大正期の教会風景【出典:『軽井沢避暑地100年』】

5— 講壇から入り口方向を見る



駒井家住宅 [駒井卓・静江記念館]

Dr. Komai's Residence

竣工年:1927年

所在地:京都府京都市左京区北白川伊織町64 | 規模:地上2階 | 構造:木造
京都市指定文化財



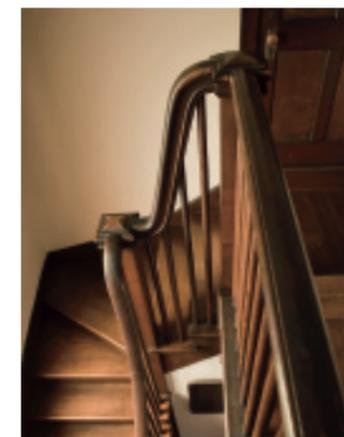
2



3



4



5

1—玄関外部:ゴロタ石のアプローチを経て、玄関ポーチに至る。親しみ良く、小さく整えられているが、スペインシュレ瓦による装飾、特有の外壁面は味わい深い
2—食堂から居間、サンルームを見る:居間では、庭に面する東側に設けられた腰掛付出窓が部屋の中心とな

っている。南のサンルームは右手の和室へと通じている
3—東面全景
4—和室:6畳であるが南と西側に1.5尺幅の出窓(内側は障子戸、外部窓は上下式の洋式)があり、ゆとりを感じさせる工夫がある

5—階段見下ろし:踏面9寸、17段をコの字に配置した緩やかな階段で、側面には大型アーチ窓が開かれている。手摺の曲線は滑らか



横浜共立学園本館

Main Building of
Doremus School

竣工年:1931年

所在地:神奈川県横浜市中区山手212
規模:地上2階、一部3階 | 構造:木造
横浜市指定文化財



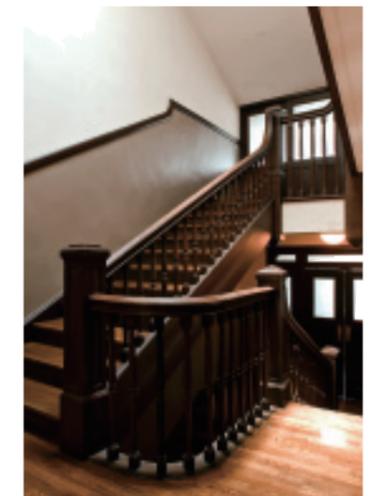
2



3



4



5

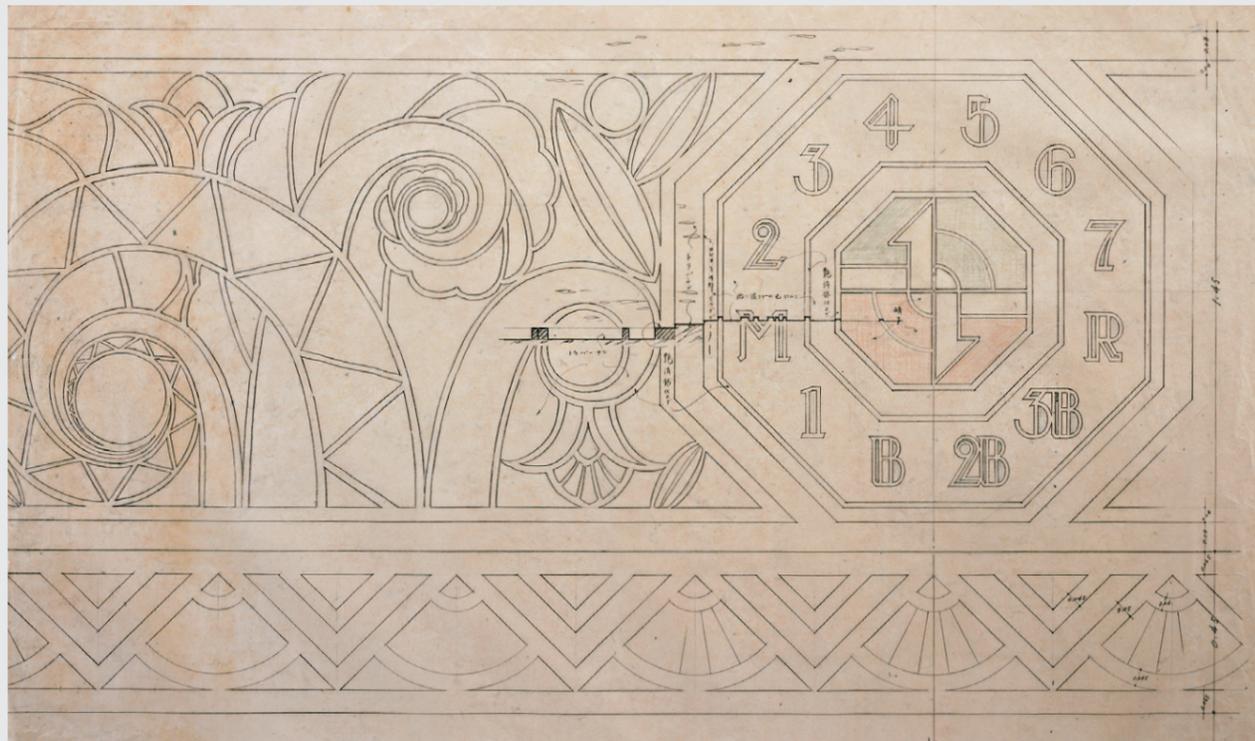
1—本館2階に設けられたピアノ記念礼拝堂:ハイパネル(腰板壁)を導入し、格調高く清楚、そして温かい空間が息づく

2—正面外観:スパニッシュにハーフティンバーと和風をバランス良くブレンドした意匠に特色がある

3—ミス・ルーミス記念室(旧図書室)

4—玄関ホールと廊下を見る

5—東側階段:密度の高い造作意匠が、存在感のある場所としている

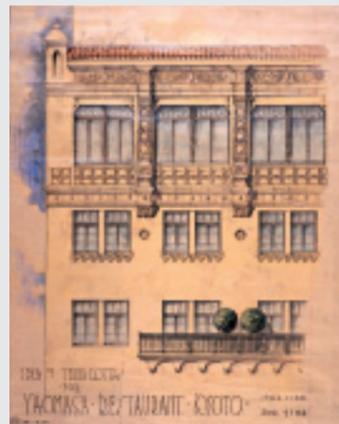


1

矢尾政レストラン (現・東華菜館)



撮影:1990年



2

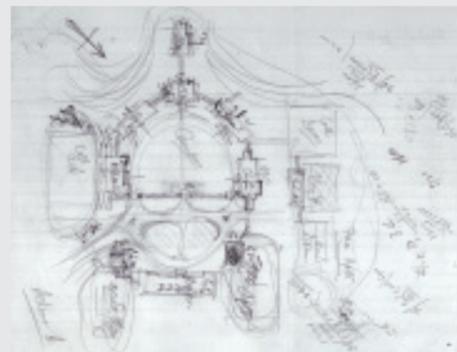


3

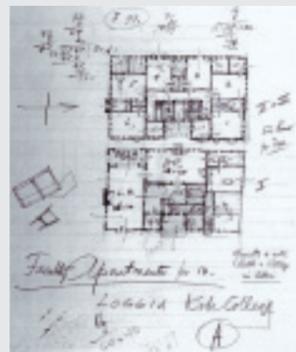
神戸女学院



撮影:1990年

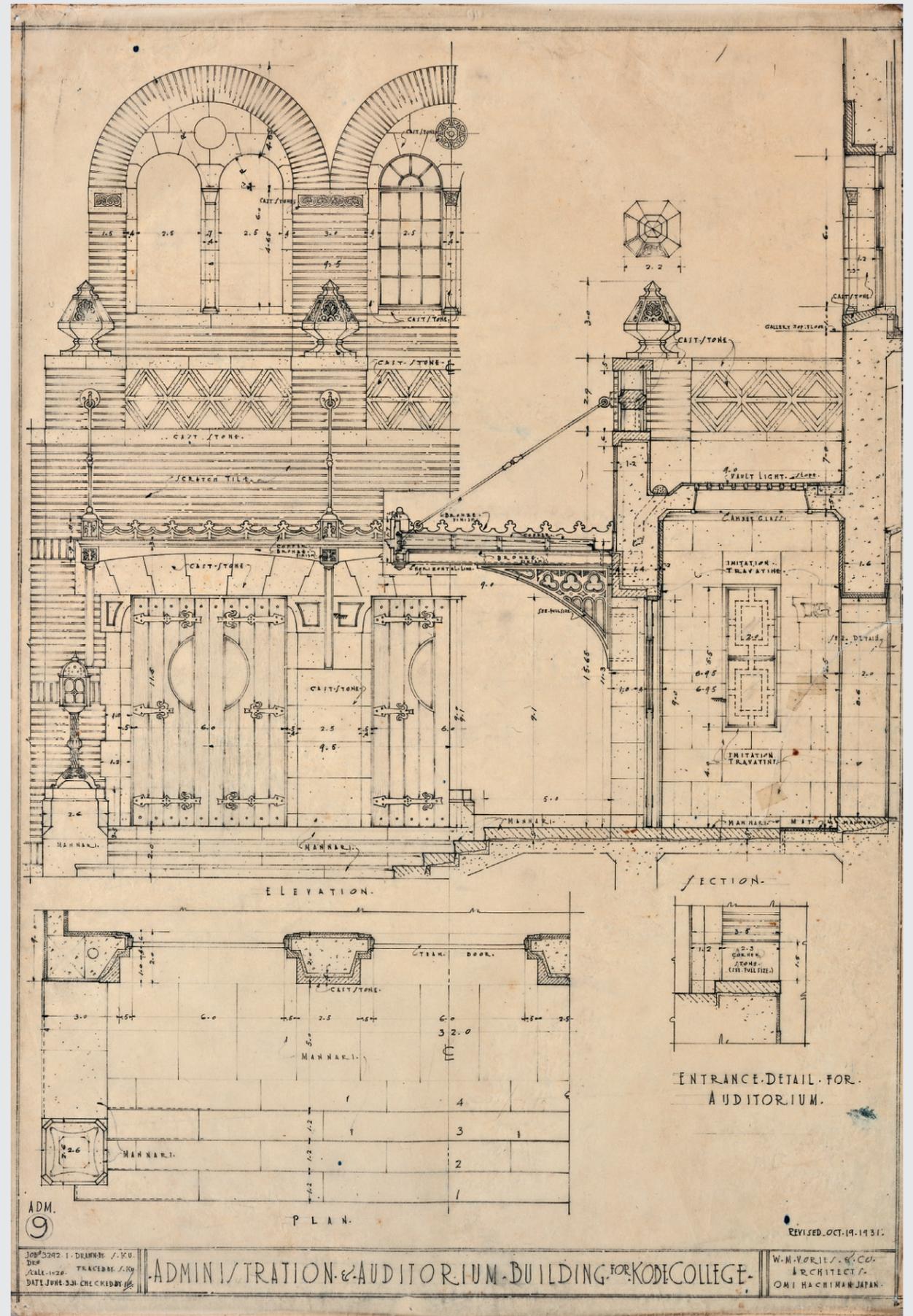


4



5

1—大丸百貨店 エレベータ階数表示意匠図[1933]。2—矢尾政レストラン 外観意匠計画図[1924]。3—矢尾政レストラン 北立面図・南立面図[1924]。4—神戸女学院 初期の配置計画案[1929-30年頃]。5—神戸女学院 宣教師館スケッチ[1929-30年頃]。6—神戸女学院 講堂入り口詳細図[1929]。||。所有:一粒社ヴォーリス建築事務所、所蔵:大阪芸術大学 | *—所蔵:一粒社ヴォーリス建築事務所



6

明治13年[1880]	10月28日、米国カンザス州レヴァンワースに生まれる				
明治20年[1887]	一家、アリゾナ州フラグスタッフに転居				
明治29年[1896]	一家、コロラド州デンバーに転居。9月、イースト・デンバー高等学校に入学				
明治33年[1900]	コロラド大学に入学	明治44年[1911]	近江ミッション設立	大正12年[1923]	ンソレータム売薬認可。11月、ヴォーリス建築事務所大阪支所を開設
明治35年[1902]	3月、第4回海外伝道学生奉仕団世界大会(カナダ・トロント)において伝道団員に志願し、海外伝道を志す契機を得る	明治45年[1912]	夏に軽井沢事務所を開設。伝道誌『湖畔之聲』創刊。12月、建築技師J.H.ヴォーゲルが来日し、近江ミッションに加わる(ヴォーゲルは1917年離日)	大正13年[1924]	著書『吾家の設計』刊行。吉田悦蔵『近江の兄弟ヴォーリス等』刊行
明治37年[1904]	コロラド大学卒業(哲学士取得)後、コロラド・スプリング市YMCAに勤務	大正2年[1913]	3月、病氣療養のため帰米。10月、慢性盲腸炎を手術し、グレンウッド・スプリングで静養し、健康を回復する	昭和2年[1927]	著書『吾家の設備』刊行
明治38年[1905]	1月29日、滋賀県立商業学校(後の滋賀県立八幡商業高等学校)に赴任のため来日。2月2日、近江八幡に到着。2月8日、ヴォーリス宅(魚屋町の借家)で最初のパイプ・クラスを開く。吉田悦蔵(当時、井上悦蔵)がヴォーリス宅に転居し、共同生活を始める。それ以来、吉田はヴォーリスの活動の協力者となる。7月13日-8月31日、日本各地を旅し、軽井沢にも滞在する	大正3年[1914]	4月29日-5月23日、中国に初めて出張し、上海、南京、杭州などでYMCA会館の建築計画。9月、伝道船『ガリヤ丸』進水。湖畔伝道を始める	昭和3年[1928]	軽井沢会副会長に選出される
明治39年[1906]	10月1日、近江八幡YMCA会館建築工事着工	大正4年[1915]	ヴォーリス合名会社東京支所を開設。近江サナトリウム開院	昭和4年[1929]	6月、伝道船『ヨルダン丸』進水
明治40年[1907]	3月31日、伝道活動のため県立商業学校教師を解職される。4月、英文伝道誌『The Omi Mustard-Seed』創刊	大正5年[1916]	2月、『近江ミッション綱領』策定	昭和5年[1930]	3月、関西学院上ヶ原キャンパス竣工
明治41年[1908]	京都YMCA会館建築工事に際し、工事監督を担当。建築設計監督事務所を開設	大正7年[1918]	近江療養院(近江サナトリウム)開院	昭和8年[1933]	6月8日、コロラド大学より名誉法学博士の称号を授与される
明治43年[1910]	1月29日-11月23日、ロシア、欧州を経て帰国。途中、シカゴでの平信徒宣教大会	大正8年[1919]	6月3日、一柳末徳子爵の三女満喜子と結婚	昭和9年[1934]	4月、神戸女学院岡田山キャンパス竣工。10月、近江家政塾開設
		大正9年[1920]	4月14日-8月11日、大同生命ビル建築計画のため廣岡恵三らと渡米し、米国建築を視察。12月、ヴォーリス合名会社を解散し、ヴォーリス建築事務所と近江セール株式会社を設立	昭和12年[1937]	2月2日、近江ミッションを近江兄弟社と改称
		大正11年[1922]	7月、近江ミッションによる清友幼稚園開園。7月5日、Wm.Merrell Vories『A Mustard-Seed in Japan』刊行。10月、メ	昭和16年[1941]	『ヴォーリス建築事務所作品集』刊行
				昭和19年[1944]	1月24日、日本に帰化し、一柳米来留と改姓
				昭和21年[1946]	戦時体制下で建築業務休止
				昭和26年[1951]	近江兄弟社建築部、活動再開
				昭和32年[1957]	『失敗者の自叙伝』の草稿起草
				昭和33年[1958]	7月、くも膜下出血のため倒れ、療養生活に入る
				昭和36年[1961]	近江八幡名誉市民の第1号に推挙される
				昭和39年[1964]	近江兄弟社建築部より株式会社一粒社ヴォーリス建築事務所が独立し、大阪に事務所開設
				昭和45年[1970]	5月7日、一柳米来留逝去(享年83歳)。正五位勲三等瑞宝章受章。同16日、近江八市民葬と近江兄弟社社葬の合同葬が行われる
					一柳米来留『失敗者の自叙伝』刊行

主な作品 | Works | ●印は現存せず

<ul style="list-style-type: none"> - 明治40年[1907] 八幡YMCA会館●(滋賀) - 明治42年[1909] 福島教会(福島) - 明治44年[1911] ヴォーリス合名会社社屋●(滋賀) グリーンソング●(兵庫) - 明治45年[1912] 関西学院神学館●(兵庫) - 大正2年[1913] 吉田邸(滋賀) ウォーターハウス邸(滋賀) 京都御幸町教会(京都) 日本学園本館●(兵庫) 伊庭慎吉アトリエ(滋賀) - 大正3年[1914] ヴォーリス邸●(滋賀) ヴォーリス合名会社軽井沢事務所●(長野) 京都大学YMCA会館(京都) ビアソン邸(北海道) - 大正4年[1915] アリス・フィンレー邸●(鹿児島) 西邑邸●(東京) 醒井郵便局舎(滋賀) - 大正5年[1916] 横浜YMCA会館●(神奈川) 明治学院礼拝堂(東京) - 大正6年[1917] 日本YMCA同盟会館●(東京) - 大正7年[1918] 近江サナトリウム/五葉館、礼拝堂(滋賀) ルーテル久留米教会(福岡) 宮城学院第二校舎●(宮城) 川上幼稚園(石川) 軽井沢ユニオンチャーチ(長野) アームストロング山荘(長野) 徳川音楽堂●(東京) - 大正8年[1919] 常田幼稚園園舎(長野) フレンド・ミッション宣教師館(東京) - 大正9年[1920] 	<ul style="list-style-type: none"> 大学啓明館(京都) シャイヴェリー邸(京都) 廣岡邸●(兵庫) - 大正10年[1921] 近江ミッション・ダブルハウス(滋賀) 早稲田奉仕団スコットホール(東京) 西南学院本館(福岡) 八幡郵便局舎(滋賀) - 大正11年[1922] 大阪教会(大阪) 神戸YMCA会館●(兵庫) 関西学院中央講堂●(兵庫) アメリカン・ボード・ミッション宣教師館●(兵庫) 松方邸(東京) 伊藤邸●(兵庫) ヴォーリス山荘(長野) 大丸大阪心斎橋店(大阪) - 大正12年[1923] 武蔵豊岡教会(埼玉) 大阪YWCA会館●(大阪) ランパス女学院●(大阪) プレスビテリアン・ミッション住宅(大阪) 諏訪邸(兵庫) 池田邸●(東京) 百三十三銀行今津支店(滋賀) - 大正13年[1924] バミリー邸(滋賀) 近江八幡教会●(滋賀) 彦根高等商業学校外国人教員住宅(滋賀) - 大正14年[1925] 屋代教会(長野) 大阪YMCA会館●(大阪) 九州学院高等学校講堂(熊本) 静岡英和女学院●(静岡) 文化アパートメント●(東京) 大同生命ビルディング●(大阪) 寺庄銀行(滋賀) 主婦の友社ビル●(東京) - 大正15年[1926] 大阪福島教会(大阪) 九州女学院本館(熊本) 活水学院本館・講堂(長崎) 朝吹邸(東京) カフマン邸●(東京) 軽井沢集會堂(長野) 矢尾政レストラン(京都) - 昭和2年[1927] 駒井家住宅(京都) - 昭和3年[1928] 大津基督教同胞教会(滋賀) 恒春園(滋賀) 	<ul style="list-style-type: none"> 広島メソジスト教会●(広島) 福島新町教会(福島) 舟岡邸(京都) 大丸京都店(京都) 水口図書館(滋賀) - 昭和4年[1929] 神戸ユニオン教会(兵庫) 草津教会(滋賀) 錦林教会(京都) 関西学院図書館 中央講堂/文学部校舎/神学部校舎/経済学部校舎/総務館/住宅ほか(兵庫) 広瀬邸(滋賀) 平田邸(滋賀) ナショナル・シティ銀行大阪支店住宅(兵庫) 阿部邸●(兵庫) 軽井沢教会(長野) ナショナル・シティ銀行神戸支店(兵庫) - 昭和5年[1930] 堅田基督教会館(滋賀) 水口基督教会館(滋賀) 下関バプテスト教会(山口) 大阪医科大学別館(大阪) ナショナル・シティ銀行神戸市店住宅●(兵庫) 宮本邸(滋賀) 軽井沢テニスコート・クラブハウス(長野) - 昭和6年[1931] 清友園幼稚園、教育会館(滋賀) ヴォーリス邸(滋賀) 佐藤邸(滋賀) 横浜共立学園本館(神奈川) 東奥義塾本館●(青森) 小寺邸(兵庫) アーウィン山荘●(兵庫) 宣教師館ファーマン邸(広島) 住井邸(滋賀) 朝吹山荘(長野) 神戸ゴルフクラブ・クラブハウス(兵庫) 大同生命横浜支店●(神奈川) - 昭和7年[1932] 同志社大学アーモスト館(京都) 聖和大学4号館(兵庫) 下村邸(京都) アンドリュース邸●(東京) - 昭和8年[1933] 啓星(ケソン) 高等学校(韓国) 活水学院講堂(長崎) 神戸女学院総務館/講堂/チャペル/文学館/理学館/図書館/音楽館/体育館/中高等部校舎/ケンウッド館ほか(兵庫) カネティアンアカデミースクール寄宿舎●(兵庫) 須栄保育専攻学校●(兵庫) 東洋英和女学院●(東京) 	<ul style="list-style-type: none"> 湯浅邸●(兵庫) 富久邸(大阪) 岩瀬邸(滋賀) 大丸大阪心斎橋店3期(大阪) - 昭和9年[1934] 今津基督教会館(滋賀) 聖学院本館●(東京) 小寺山荘(兵庫) 室谷邸●(兵庫) - 昭和10年[1935] 近江八幡YMCA会館(滋賀) 博愛社礼拝堂(大阪) 梨花女子専門学校(韓国) 西南女学院講堂(福岡) 遺愛学院講堂(北海道) プール学院本館/礼拝堂●(大阪) 近江岸邸(大阪) 近江家政塾本館(滋賀) 村松邸●(兵庫) 川崎山荘●(長野) - 昭和11年[1936] 日本聖公会京都復活教会(京都) 救世軍京都小隊(京都) 京都YWCA別館(京都) 忠田邸(滋賀) 鈴木歯科診療所(長野) 今津郵便局(滋賀) - 昭和12年[1937] 安東(アンドン)教会(韓国) 慶應義塾大学YMCAチャペル(神奈川) 宮城学院講堂●(宮城) 豊郷尋常高等小学校(滋賀) 林邸●(東京) 阿部市ビルディング●(大阪) 佐藤新興生活館(東京) - 昭和13年[1938] 高田降臨教会(新潟) 八幡商業高等学校本館(滋賀) 海海邸●(兵庫) 蜂須賀別邸●(静岡) - 昭和14年[1939] 久慈幼稚園(岩手) 亀井邸(東京) 復活学園キャンパスハウス(滋賀) - 昭和15年[1940] マッケンジー邸(静岡) - 昭和16年[1941] 岸山山荘(長野) - 昭和26年[1951] 大阪女学院高等学校/ハールチャペル(大阪)
--	---	--	---

取材協力:一粒社ヴォーリス建築事務所/大阪芸術大学博物館/学校法人神戸女学院/学校法人横浜共立学園/軽井沢ユニオンチャーチ/財団法人日本ナショナルトラスト/東葉業館 | 参考資料:『ヴォーリス建築の100年』[山形政昭監修、創元社/2008] | その他:特記のない写真は撮り下ろしです | 次号予告:『INAX REPORT No.180』の「続・生き続ける建築」は鈴木慎次です | 訂正とお詫び:本誌No.178の吉田鉄郎特集において、鉄郎の母の名「あく」は「あぐ」でした。訂正してお詫びいたします